

2020年9月7日

2019年度学校関係者評価報告書

エール学園
学校関係者評価委員会

エール学園学校関係者評価委員会では以下のように、2019年自己点検・自己評価表に基づき学校関係者評価を行いましたので、以下のように報告致します。

1 学校関係者評価実施概要

①学校関係者委員名簿

氏名	所属	属性
吉水 雄一	株式会社 OS コンサルティング 代表取締役	企業・業界団体関係者
原田 智樹	株式会社アーストレック 代表取締役	卒業生 企業・業界団体関係者
牧 文彦	NPO 法人ディープピープル 理事長	企業・業界団体関係者
中澤 修	株式会社ケイティエス 常務取締役	卒業生保護者
内山 雅文	大阪 YMCA	在校生・卒業生の出身学校
任 滸龍	エール学園	卒業生 同窓会会長(事務局)
長谷川 恵一	エール学園 理事長	法人代表者(事務局)
萩原 大作	エール学園 校長	学校代表者(事務局)
崎村 真	エール学園 キャリア教育事業本部 応用日本語教育事業本部 日本語教育事業本部 担当理事	日本語教育学科運営責任者 (事務局)
木村 多恵子	エール学園 教育開発事業本部 募集開発事業本部 担当理事	学生募集責任者(事務局)
豫城 聖子	エール学園 キャリア教育事業本部 本部長	専門教育学科運営責任者 (事務局)
西村 康司	エール学園 キャリ支援室 室長	就職支援関係担当者(事務局)
木田 明美	エール学園 副理事長	法人本部事務責任者 事務局担当(事務局)

②学校関係者評価委員会次第

学校関係者評価日程		
日 時：2020年9月7日（月） 15時30分～17時30分		
場 所：エール学園5号館8階教室		
会議名：エール学園学校関係者評価委員会		
会議次第		
時間	項目	担当者
15時30分	1. 開会挨拶	長谷川理事長
15時40分	2. 委員紹介	事務局
15時50分	3. 2019年度自己評価結果全体について ・自己評価結果概要説明 ・専修学校における学校評価ガイドラインに基づく評価の大項目別の概要説明 ・各学科の活動状況報告及び進路状況について	学校側各担当者
16時45分	4. 質疑応答／意見交換	各委員より発言
17時05分	5. 結果とりまとめと公表計画について	事務局
17時20分	6. 閉会挨拶	萩原校長
参考資料		
1 2019年度エール学園自己点検・自己評価結果報告書		
2 学校パンフレット一式		
3 新年度学則（2020年度学則）		
4 学科別在籍状況及び卒業及び進路状況資料		
5 2019年度財務状況資料 決算概要		
6 その他の資料		

2 外部委員よりいただいた意見・評価

評価項目	評価・意見
教育目標と重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の流れに適応して設定されている。 ・「なりたい自分とつくす自分」の目標で他者への配慮があるのが良い。持続可能な経済、社会の実現、人類に貢献する人材を育成してください。 ・1976年の第一世代経営理念作成後、現在は第三世代理念として「ミッション・ビジョン・バリュー・行動指針」まで具体的に策定されており、特に理念は経営目線の大号令となりがちで有名無実化する組織も多い中で、同校は組織全体に浸透していると感じる。具体的には海外での産学連携プロジェクトを毎年継続的に実施（行動）していることは、学生、教職員、経営が一体となりミッションから自らの行動がどのような価値につながるかを自覚している証左である。 ・学園としての教育目標、重点目標が具体的で理解しやすく共有されやすいものになっており、その成果も具体的な数字で表されています。 ・教育理念及び重点目標の共通項目として自己実現と奉仕の精神を目指されており、バランスの良い成長を目指していることがわかります。
基準1 教育理念・目的・育成人材等	<ul style="list-style-type: none"> ・理念の表出に常に意識化がはかられていると共に実践に連動されている。 ・第一世代から第三世代へと理念が時代に対応している。 ・同校理念「なりたい自分、つくす自分」は職員、在校生、卒業生まで浸透しており社会貢献（地域ボランティア活動、海外産学イベント開催など）の実績からもSDGsを先取しており、教育の先を見据えた目標を周知徹底していることは同校の特長でもあり、差別化事項でもあり高く評価できる。 ・教育理念、教育の目的、育成人材像はホームページやパンフレットにも明示され、周知されていると思います。時代の変化に沿った人材育成がなされていると思われます。 ・相互依存性や異文化理解を育みやすい留学生を通じて、共生共創社会を目指す人材育成を目指すため、自己実現と他者支援、自利と利他の追求は大変社会にとって必要なことだと具体的な日々の行動を通じて目指せるものとなっていることは重要だと思います。
基準2 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的であると共に社会の変化に対応している。 ・学校運営の基本となる募集人員1600人を達成している。 ・2020年は新型コロナウイルスの影響で経営にも大きな影響があり、4月入学学生一部が来日できず9月現在も入学が保留になっており、経営収支にも影響がでることは今後否めない。ただ同校はコロナに先んじてオンライン教育環境への投資を拡充していたこともあり、オンライン講義環境が充実し、海外学生に対してもオンラインを通じ講義資料の共有なども安定的に対応できるインフラを構築しており、コロナ禍の教育ノウハウが今

	<p>後の 新たな教育を構築する契機となることを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営方針、事業計画は中期計画から四半期目標まで明確に示されており、ぶれない運営を目指して組織運営に取り込まれていると思います。 ・学生支援の為には、教職員の成長が欠かせないとの基本方針により、より力強い活動ができる基礎力が養われていることと思います。
<p>基準3 教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理念と社会ニーズのマッチングを積極的に実践されている。 ・学生の多様化する国籍と希望進路の多さに良く対応している。 ・教育活動目標は大きく「進学」と「就職」に分かれるが特に後者については、コロナ禍にあっても同校がこれまで構築してきた企業連携が価値を発揮している。学外現場教育（実施教育）であるインターンシップも①地域貢献型②キャリアアップ型③採用選考型とインターンシップを単一にまとめ実施することを目的にせず、学生の志向、成長、そして機会創出を意識し設計している点は独自の取り組みと評価できる。 ・人材ニーズのある多彩な学科が設けられており、各学科とも時代や国際環境、業界のニーズに向けた教育活動が行われていると思います。 ・進む多国籍化への的確な対応は、客観的な評価システムによるものだと思います。
<p>基準4 教育成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトプットにとらわれずアウトカム重視が伺える。 ・国公立大学の進学増と進学希望全員の進学を。就職希望者全員の就職を達成してほしい。 ・進学、就職についても高い実績を残しており専門課程卒業生は国公立大学・大学院進学が 103 名、就職率も 97.2%と高く、特に就職ではビザ期間が 3 年以上のビザ取得学生は就職決定学生の約 45%と学校で学んだ専門性が就職先の需要に合致していることがうかがえる。 ・高い就職率や東京大学、京都大学、大阪大学などの国公立大学・大学院への進学など大きな実績をあげています。就職、進学とも、学生ひとりひとりのサポートを行う体制が整えられていると思います。 ・進学予備教育としての位置付けとして着実な成果を上げられている。
<p>基準5 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最終進路までのケアがなされている。 ・アルバイトの世話から、寮の設備等良く対応されている。コロナ禍での支援も頑張っておられる。 ・2020 年新型コロナウイルスの影響により、学生不安はもちろん海外ご両親の不安は非常に大きく、これまで以上に学生の出席、生活状況の定期的な共有に加え、ご両親の懸念に配慮し、ハイブリッド講義（対面講義＋オンライン講義）でも対面講義参加を必ずしも強制することはなく、ご両親の不安に配慮した講義体制は学生支援はもちろん、情報が不足している海外ご両親への安心感にもつながっている。 ・就職指導、進学指導、生活指導、それぞれに部署と専門人材が配置され、サポートが充実しています。奨学金制度など経済的な支援体制、健康面の支援体制もきめ細やかな支援が行われていると思います。

	<ul style="list-style-type: none"> ・多国籍な言語での進学支援や、アルバイト紹介などの生活支援、多岐にわたる支援での成果は大きいと思います。
<p>基準6 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ともすれば教育環境としては好ましくないと捉えられがちな地域性を、逆に優位性として生かされている。 ・教室が近くに集まっており、ICT設備も整い、コロナ禍でのリモート授業も良くやっている。 ・2020年は新型コロナウイルスの影響で経営にも大きな影響があったと判断するが、2019年に先を見据えて投資をしたICT教育環境では効率的な運営には未だ課題があるものの、オンライン講義をいち早く展開し、時期をみて対面講義とオンライン講義のハイブリッド講義に移行し、国内在住学生には安全性を、国外在住学生には教育機会損失の回避を徹底していることは留学を希望したすべての学生に一律な教育環境の提供を徹底していると評価できる。 ・全教室にICT設備を導入するなど最新の教育環境に配慮されています。 <p>企業インターンシップ制度も実施されており、ハード・ソフトの両面で教育環境の充実が伺えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育効果と質の向上を狙ったICT設備は環境の大幅な改善となり素晴らしい環境を作られています。地域貢献型、キャリアアップ支援型、採用選考型とバランスの良いインターンシップが定着していると思います。
<p>基準7 学生募集と受け入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・順調と思われる。 ・海外のトップ大学との提携も進み、教室の建て替えも進み、良である。 ・学生募集については新型コロナウイルスの影響も一部受け、出願数は7期ぶりの減少に陥り、コロナ禍の今後についても外部影響を受けることと思われる。その状況下にあっても2019年に投資をしたICTオンライン講義の更なる機能強化を図り、オンライン環境の拡充を今後も中長期視点に立ち行うことで講義以外のオンライン説明会などもすでに中国で展開していることから、学生募集にもICTを活用し今後奏功すると思われる。またASEAN大学（特にベトナムの大学）とは相互連携を強化する中で、海外現地大学と連携をした留学機会の創出に努めており、今後も海外大学とのアライアンスを太くする事業計画の下で日本への留学の門戸を広げる方針。 ・海外のエージェントや海外のトップレベルの大学との連携、国内の日本語学校との関係を強化されるなどして、レベルの高い学生の募集が行えていると思います。 ・海外のエージェントとの信頼関係や大学との連携などの推進を通じて更なる規模拡大につながると考えられます。
<p>基準8 財務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・順調と思われる。但し、今後のコロナ禍の状況による。 ・実質無借金経営であり、評価大である。今後、コロナ禍でのグローバル化の縮小が考えられるのが少々不安材料ではないか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年から留学生数が増加し2019年には1500名を超え、定員充足状況となり、収支差額が10%超と続き財務状況も安定している。またB/S上の自己資本比率((66%)、流動比率(218%)と財務自己資本体質は高いことも経営状態が安定している証左と評価できる。 ・2020年度は新型コロナウイルスの影響があると思われませんが、昨年度までは5年連続の大幅黒字により借金ゼロの財務基盤とのことで、安定した財務状況です。 ・5年連続での10%を超える収支差額を出されることでより安定的な将来への設備投資、教育投資という未来創造発展費用としての投資に活かされていることがよくわかり、素晴らしい発展だと思います。
<p>基準9 法令等の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の多国籍化による文化の多様性にもよく対応して、コンプライアンスな学校運営になっている ・コロナ禍で業務過多になりやすい教職員労働においても「働き方改革」を順守し、教職員、講師(非常勤講師含む)との連携から業務役割を相互に共有をし、業務負担を軽減する経営努力を行っている。教職員有給休暇消化率も高い。 ・留学生に特化した学校として、留学生の在籍管理に力を入れ、「在籍管理適正校」の認定を受けておられ、高い評価を得られていると思います。 ・管理省庁の定める規定や基準の遵守に沿った学校運営をされておられます。
<p>基準10 社会貢献・地域貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に外部との繋がり、連携、協働がはかられている。 ・地域社会への貢献で、さらに学校の知名度も上がり良である。 ・SDGsのS(社会貢献)については、より身近な地域貢献を長年実施していることから評価が非常に高い項目である。学園経営理念をもとに全ステークホルダーが行動まで徹底していることが結果として学生の卒業後の進路、そして卒業生が社会人となった時にも周囲に留学時に学んだことを伝播することで同校の理念である卒業生が「平和の使者」となることは、世界的な社会貢献にもつながっている。 ・地域や各種団体からの通訳・翻訳の要請への協力、地域貢献型インターンシップの実施、ボランティア活動、企業や団体との連携・交流など様々な取り組みを行っており、社会貢献、地域貢献がなされています。 ・学びと行動によって多文化共生の地域づくりに貢献されている実践がよくわかり、素晴らしいと思います。

3 まとめ

エール学園では、自己点検・自己評価とそれに基づく学校関係者評価での意見・評価を今後の学校運営の改善に活かす努力を続けるべくここにこの結果を公開致します。

また継続的に自己点検・自己評価→学校関係者評価のPDCAサイクルで教育の質向上に努力する所存です。

以上